

甘利大臣記者会見冒頭発言(10月8日)

日時：2013年10月8日(火) 17:40～18:00

場所：バリ ヌサドゥアビーチホテル ガルーダルーム

<甘利大臣冒頭発言>

先ほど、TPP首脳会合が終了した。我が国からは安倍総理が出席され、私も同席した。首脳会合においては、閣僚会合で整理された論点、今後のステップ等について首脳に報告がなされ、その後に交渉の年内妥結に向けた今後の方向性について、首脳間で議論が行われ、年内妥結に向けてしっかりと議論ができた。

包括的でバランスのとれた協定を年内に妥結するために残された困難な課題の解決に取り組むことが首脳間で合意された。交渉を加速するために精力的に関与を続ける。首脳、閣僚間など一連の会合を通じて、交渉妥結に向けた道筋や政治的課題が明確になり、年内合意へ向けて大きな流れができたと思う。

日本としては、閣僚会合の場で、交渉が難航している知的財産分野について、政治的に解決しなければならない課題を整理するなど、交渉の前進に向け積極的な貢献を果たした。知的財産については、日本で中間会合を開催することを各国と調整中だが、日本で開くことになると思う。

安倍総理の参加により、各国から日本への大きな期待が感じられた。交渉の年内妥結に向けて日本も積極的に役割を果たしていく。

首脳会議の中での進行状況についてだが、議長であるNZの首相から新規加盟国の参加を歓迎する中で、新規加盟三カ国の首脳が発言した。安倍総理の発言の際、議長から国内の難しい問題を抱えているにも関わらず、安倍総理の決断で参加が決まり、その後の貢献に関して歓迎をするとの紹介があった。安倍総理にだけその種の言葉が述べられた。そして、その他の各国からも日本の参加を歓迎する発言があった。

安倍総理は、その中で、冒頭に紹介したとおりの発言をされ、その後、総理は終盤間際にも発言をされた。総理の発言内容は、TPPはモノだけではなく、サービス、投資、電子商取引、国有企業等、幅広い分野のバランスをとることが重要であるとの指摘をされた。首脳が年内妥結に向けて、難しい問題は残っているけれども、目標を共有してその難しい、残っている問題に対して閣僚や交渉官に指示を出すということが我々首脳の仕事だということ述べた。その後、議長が、安倍総理の発言を引用する形で、会議を取りまとめた。他国の発言については、各国から紹介されるので私からは紹介しない。

(以上)